

平成26年度 弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム報告書

事業名：「地域間人材循環モデルの構築」を題材とした学生海外 PBL プログラム

参加者：学生 8名

李 永俊（教員）

実施期間：平成27年 2月15日－平成27年 2月20日

訪問先：韓国大邱市（慶北大学校）など

申請代表者：李 永俊（人文学部 教授）

事業の概要及び成果等：

本事業は、本学学生が弘前市とその周辺過疎地域間を結ぶ循環モデルを構築し、地域の過疎化・人口減少対策を模索するために、韓国の地方中核都市（大邱市）が地域の大学との連携で実施している中核都市と周辺地域間の労働市場の循環モデルを調査研究することを目的とする。また、本学と大学間協定を締結している慶北大学校の学生との共同セミナーを通して、本学学生のグローバルマインドを涵養することも目的としている。本事業は、PBL プログラムとして、客観的なデータ分析を通して現状を把握し、現地での調査で先行的な解決策を学び、それをこの地域の実情にあわせてモデル化する、そしてそのモデルを行動で実践するという PBL 学習で不可欠な諸要因を学ぶことができるプログラムとなっている。また、その過程で、基礎科目と専門科目で学んだ知識を実践で応用する能力も試してほしい。経済学の基礎的知識を、PBL 学習を通して可視化できる能力を養うことを本事業の具体的な成果としたい。

本事業は、地域間人材循環モデルを構築することにある。具体的な課題としては次のようになる。

- ① 地域別労働市場のマクロ的な現状を把握する。公表データを用いて市場の状況を正確に把握する。
- ② 時期別労働需給の変化を公表データ、現地でのヒアリング調査で明らかにする。
- ③ 地域間人材循環モデルのシステム的な仕組みを理解する。参加団体やそれぞれの役割、総合的なマネジメントの仕組みなどを理解する。
- ④ 事前調査と現地調査を基に、弘前市とその周辺地域をモデルに「津軽地域間人材循環モデル」を構築する。

申請代表者（指導教員）は、地域中核都市に位置している本学の役割として、中核都市周辺過疎地域への支援の仕組みについて、4年前から教育・研究の一環として行ってきた。本事業の課題は、その問題意識の延長線にあるものである。また、本事業は、PBL プログラムとして、客観的なデータ分析を通して現状を把握し、現地での調査で先行的な解決策を学び、それをこの地域の実情にあわせてモデル化する、そしてそのモデルを行動で実践するという PBL 学習で不可欠な諸要因を学ぶことができるプログラムとなっている。また、その過程で、基礎科目と専門科目で学んだ知識を実践で応用する能力も学べたと思う。経済学の基礎的知識を PBL 学習を通して可視化できるかを本事業の受講者の達成度の評価基準としていたが、今回の事業では 100%達成できたと評価できる。その他に、教育

面では、異文化コミュニケーションや自己表現力、実践的英語力などが養われた。また、地域貢献面では、津軽地域間循環モデルのヒントを得ることが出来たことや、若年者の地元就業力を高めるための政策的なヒント、そして日韓若者の民間交流のきっかけを得ることが出来たことが大きな成果といえる。

《日本でのフィールドワークの様子》



《韓国での学修の様子》

